



5 インストール 完了後の作業

管理ユーティリティのインストール方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明しています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには、Express5800/ftサーバ監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpress5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800/ftサーバのハードウェア、ソフトウェアの稼動状況、構成情報、障害発生状況を監視するためのユーティリティです。何らかの異常を検出するとESMPRO/ServerManagerをインストールしたコンピュータへ通報を行います。

ESMPRO/ServerAgentは、本装置のハードディスクドライブに出荷時にインストール済みです。また、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアのインストールを行うことでインストールされます。ただし、ESMPRO/ServerAgentが動作するためにはお客様の環境に応じて設定を行う必要がありますので、後述の「セットアップを始める前に」を参照して設定を行ってください。



Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア／ソフトウェア環境は次の通りです。

● ハードウェア

- インストールする装置
Express5800/ftサーバ本体

● ソフトウェア

以下のパッケージが必要です。

インストールされていないパッケージがある場合は、インストールしてください。

- elfutils-devel
- elfutils-libelf-devel
- elfutils-libelf-devel-static
- elfutils-libs
- libselinux-devel
- libsepol-devel
- sqlite-devel
- beecrypt-devel

- elfutils-devel
- elfutils-devel-static
- lm_sensors
- net-snmp-libs
- perl
- rpm-devel
- tcp_wrappers
- compat-libstdc++-33
- glibc
- libstdc++
- net-snmp
- net-snmp-devel
- net-snmp-utils
- newt
- newt-devel
- portmap
- slang
- slang-devel

セットアップを始める前に



インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。ESMPRO/ServerAgentを動作させるためには各種サービスが正常にインストールされ、稼動している必要があります。

1. 必要なパッケージの確認

ESMPRO/ServerAgentを使用するためには、以下のパッケージが必要です。
インストールされていないパッケージがある場合には、インストールしてください。

- elfutils-devel
- elfutils-libelf-devel
- elfutils-libelf-devel-static
- elfutils-libs
- libselinux-devel
- libsepol-devel
- sqlite-devel
- beecrypt-devel
- elfutils-devel
- elfutils-devel-static
- lm_sensors
- net-snmp-libs
- perl
- rpm-devel
- tcp_wrappers
- compat-libstdc++-33
- glibc
- libstdc++
- net-snmp
- net-snmp-devel
- net-snmp-utils
- newt
- newt-devel
- portmap
- slang
- slang-devel

2. snmpdの環境設定

esminst.shを実行すると本設定は行われます。

snmpdの環境設定ファイル(/etc/opt/ft/snmp/snmpd.conf)を変更してコミュニティの権利を「READ WRITE」以上にしてください。

Express5800/ftサーバではsnmpdの環境設定ファイルは/etc/opt/ft/snmp/snmpd.confを使用しています。また、snmpdを再起動した場合、正しい環境設定ファイルが使用されず、ESMPRO/ServerAgentが正常に動作できません。そのため、本サーバではft-snmpを再起動する必要があります。

```
# /etc/init.d/ft-snmp restart
```

以下を参考にして環境設定ファイルをviコマンド等で修正してください。

各設定内容の詳細につきましては、snmpdのオンラインヘルプを参照してください。

```
####  
# Third, create a view for us to let the group have rights to:  
# name incl/excl subtree mask(optional)  
view all included .1 80  
####  
# Finally, great the group read-only access to the systemview view.  
# group context sec.model sec.level prefix read write notif  
access notConfigGroup "" any noauth exact all all none
```

3. portmapの起動設定

esminst.shを実行すると本設定は行われます。

portmapを自動設定できるように設定してください。

```
# /sbin/chkconfig --level 345 portmap on
```

4. ファイアウォールの設定

ESMPRO/ServerManagerから監視する場合、以下のポートを利用して行います。

お使いの環境でファイアウォールの設定をされている場合、以下のポートに対してアクセスを許可する設定を行ってください。

```
snmp 161/udp  
snmp-trap 162/udp
```

5. SELinuxの設定

ESMPRO/ServerAgentはsnmpdを利用しています。

SELinux機能が有効となっている場合は、以下のコマンドを実行し、snmpdの制限を解除してください。

```
# setsebool -P snmpd_disable_trans 1
# /etc/init.d/ft-snmp restart
```

SELinux機能の設定状況は、sestatusコマンドを実行することで確認してください。

「SELinux status:」が「enabled」と表示される場合、SELinux機能が有効になっています。

```
# sestatus -v
```

```
SELinux status: enabled
:
:
```

——— ここをチェックしてください。

インストール手順

1. root権限のあるユーザでログインする。
2. 装置に添付されている「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブに挿入し、マウントする。
3. ESMPRO/ServerAgentが格納されているディレクトリへ移動する。

```
# cd /(マウントポイント)/001/lnx/pp/esmpro_sa/
```

ESMPRO/ServerAgentは、「EXPRESSBUILDER」DVDの001/lnx/pp/esmpro_sa/配下に格納されています。

4. 上記ディレクトリ配下のインストールスクリプトを実行する。

```
# sh esminst.sh
```

5. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出してから、システムを再起動する。



ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerに通報を行うためには、再起動後に「通報設定機能」で通報手段の設定を行う必要があります。通報手段の設定方法はEXPRESSBUILDERに格納されている「ESMPRO/ServerAgentユーザズガイド」を参照してください。

esminst.shで実行する処理について

esminst.shでは、以下の処理を実行します。

1. snmpdの環境設定
2. portmapの起動設定

```
# /sbin/chkconfig --level 345 portmap on
```

3. ESMPRO/ServerAgentのインストール

アンインストール手順

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. 以下のコマンドを入力してパッケージをアンインストールする。

```
# rpm -e Esmpro-Express  
# rpm -e Esmpro-ft  
# rpm -e Esmpro-type1  
# rpm -e Esmpro-common
```

3. OSを再起動する。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

次の説明に従ってESMPRO/ServerAgentをセットアップします。

監視機能

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。コントロールパネルで、使用する環境に合わせて設定してください。

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。

```
# cd /opt/nec/esmpo_sa
```

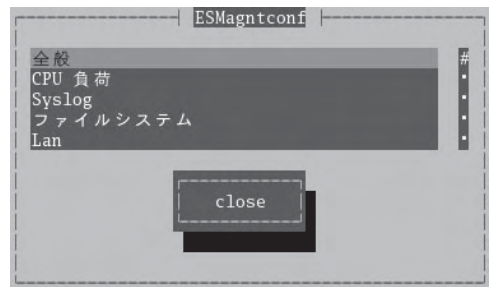
3. コントロールパネルが格納されているディレクトリに移動する。

```
# cd bin
```

4. コントロールパネルを起動する。

```
# ./ESMagntconf
```

コントロールパネルの画面が表示されます。



通報設定

ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerへ通報を行うには、通報手段の設定が必要です。

マネージャ通報(SNMP)の設定

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。

```
# cd /opt/nec/esmpo_sa
```

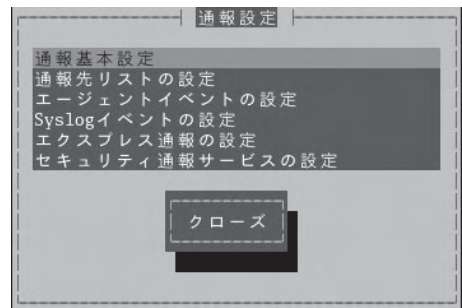
3. 通報設定のツールが格納されているディレクトリに移動する。

```
# cd bin
```

4. 通報設定のツールを起動する。

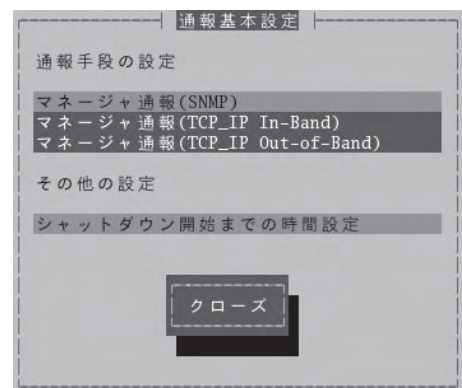
```
# ./ESMamsadm
```

[通報設定]の画面が表示されます。



5. [通報基本設定]を選択する。

[通報基本設定]の画面が表示されます。



6. [マネージャ通報(SNMP)]を選択する。

[SNMPトラップ設定]の画面が開きます。

7. [通報先手段]を有効にする。

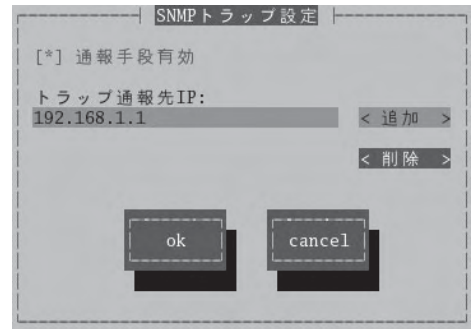
スペースキーで設定します。チェック時は有効になります。アンチェック時は無効になります。

8. [追加]ボタンを実行して、[トラップ通報先IP]を設定する。

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている装置のIPアドレスを設定します。

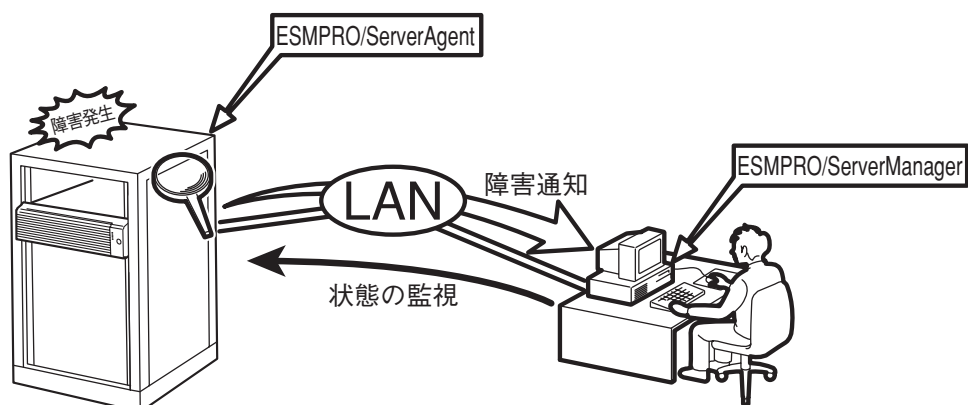
9. ツールを終了する。

ESMPRO/ServerManagerにマネージャ通報(SNMP)が行われるようになります。



ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項については別冊のユーザーズガイドを参照してください。

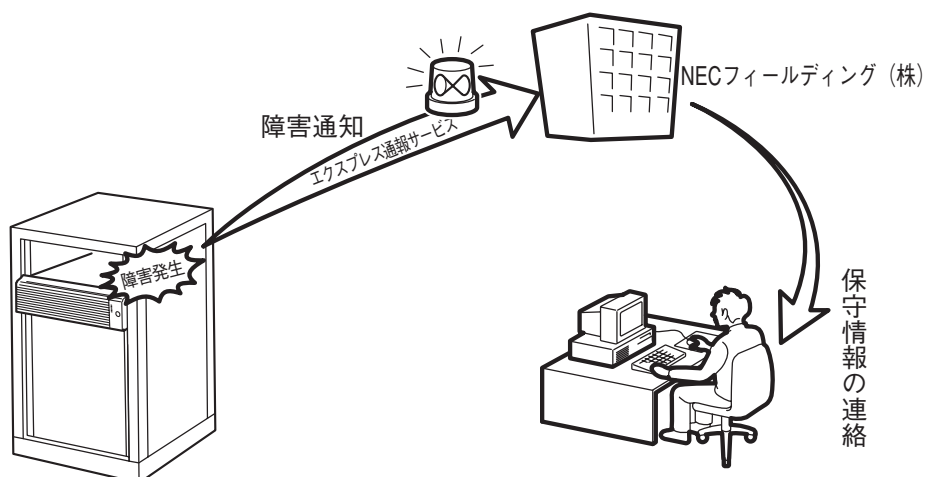
エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。



ご利用には別途、保守契約が必要です。

ヒント



エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、別冊のユーザーズガイドを参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

また、エクスプレス通報サービスのインストールに関しては、インストレーションガイドを参照してください。

カーネルのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現しているソフトウェアの中核であるカーネルのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のカーネルのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 以下コマンドを実行する。

```
# uname -a
```

動作中のカーネルのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は終了です。

ft Server Control Softwareのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現している各種ソフトウェアの集合であるft Server Control Softwareのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のft Server Control Softwareのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 以下コマンドを実行する。

```
# rpm -q lsb-ft-eula_display
```

動作中のft Server Control Softwareのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は終了です。

